

Asahi**KASEI**

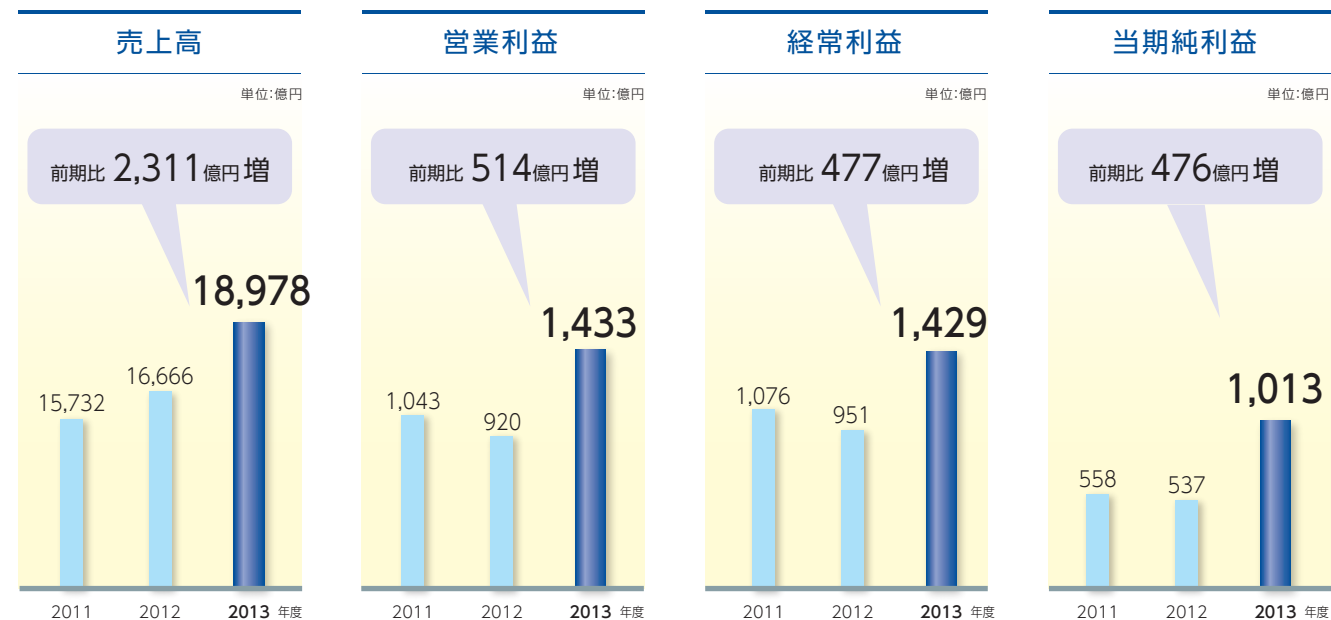
グループ事業のご報告

第123期年次決算
2013.4.1～2014.3.31

証券コード：3407

旭化成株式会社

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて過去最高を達成



■ 2013年度の業績について

当社グループの当期の売上高は、内需型の住宅事業や医薬事業が好調に推移したことに加え、輸出環境の改善によりケミカル事業やエレクトロニクス事業の業績も持ち直したことから、1兆8,978億円で前期比2,311億円(13.9%)の増収となりました。

営業利益は1,433億円で前期比514億円(55.9%)の増益となり、経常利益は1,429億円で前期比477億円(50.2%)

の増益となりました。なお、ケミカル事業における岡山県・水島地区エチレンセンターの集約および国内石油化学事業の基盤強化などによる事業構造改善費用225億円を計上したものの、医薬事業において米国での損害賠償請求訴訟の判決が確定し、受取損害賠償金535億円を計上したことから、当期純利益は1,013億円で前期比476億円(88.6%)の増益となりました。

ごあいさつ



取締役会長 伊藤 一郎
代表取締役社長 浅野 敏雄

“グループ事業のご報告”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

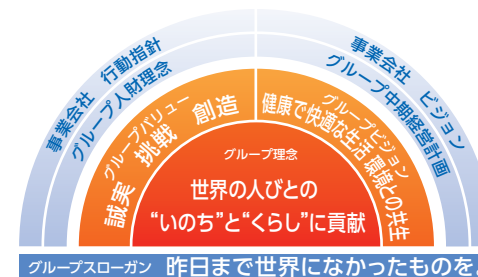
当期の世界経済は、米国で景気の回復基調が続く、欧州でも持ち直しの動きが見られるなど緩やかな回復傾向にありましたが、中国をはじめとする新興国の経済成長が鈍化するなど、不透明な状況にありました。一方、日本経済は、円高の是正や株高による資産効果により企業収益や個人消費が持ち直すなど、景気は回復傾向にありましたが、依然として世界の政治や経済の不安定さによる影響が懸念されています。

このようななかで、当社グループの当期における連結業績は内需型・グローバル型事業ともに堅調に推移し、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて過去最高を達成しました。当期末の配当につきましては、この業績を鑑み、普通配当8円に特別配当2円を加え、10円とさせていただきます。この結果、中間配当7円と合わせた当期の年間配当は、前期に比べて3円増配の1株当たり17円となります。

当社グループでは、2015年度を最終年度とする5か年の中期経営計画「For Tomorrow 2015」を実行しています。この経営計画では、世界で競争優位にある事業を積極的に拡大する「グローバルリーディング事業の展開」と、「環境・エネルギー」「住・暮らし」「ヘルスケア」の3分野に重点的に経営資源を投入して取り組む「新しい社会価値の創出」を図ることを事業戦略としています。2014年度は、これまでこの計画に沿って進めてきた施策の成果を発現させ、収益に貢献させる年と位置付けています。

当社では、引き続きグループ一体となって、さらなる成長を図ってまいりますので、従来と変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

グループ理念体系図



2014年6月



代表取締役社長 浅野敏雄

Profile [プロフィール]

- 1975年 3月 東京大学薬学部卒
 - 1975年 4月 旭化成工業(株) (現 旭化成) 入社
 - 2001年 6月 旭化成(株) ライフサイエンス総合研究所長
 - 2003年10月 旭化成ファーマ(株) 執行役員
 - 2008年 4月 旭化成ファーマ(株) 取締役 兼 常務執行役員 研究開発管掌
 - 2010年 4月 旭化成ファーマ(株) 代表取締役社長 兼 社長執行役員
 - 2011年 4月 旭化成ファーマ(株) 代表取締役社長 兼 社長執行役員 兼 旭化成(株) 執行役員
 - 2014年 4月 旭化成(株) 社長執行役員
 - 2014年 6月 旭化成(株) 代表取締役社長 兼 社長執行役員
- 富山県出身・薬学博士

「For Tomorrow 2015」の完遂に向け、成長戦略を着実に実行します。

グループ理念
 私たち旭化成グループは
 世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献します

■ 2013年度の総括をお願いいたします。

2013年度の当社グループの連結業績は、内需型の住宅事業や医薬事業が堅調に推移し、グローバル型のケミカル事業やエレクトロニクス事業も円安による輸出環境の改善などにより、大きく持ち直しました。また、特別損失としてケミカル事業における岡山県・水島地区エチレンセンターの集約および国内石油化学事業の基盤強化などによる事業構造改善費用を計上したものの、医薬事業において米国での損害賠償請求訴訟の判決が確定し、特別利益として受取損害賠償金を計上したことから、連結業績は過去最高となりました。

■ 2013年度に実行した施策についてお聞かせください。

当社グループでは、2015年度を最終年度とする5カ年の中期経営計画「For Tomorrow 2015」を実行中です。

グループ理念に基づいた『健康で快適な生活』と『環境との共生』の視点で、(1)グローバルリーディング事業の積極的な展開、(2)「環境・エネルギー」「住・暮らし」「ヘルスケア」3分野での新しい社会価値の創出という2つの事業戦略を掲げています。これらの実現のため、5年間で1兆円規模の成長戦略投資を計画し、営業利益1,600億円を目標としています。

「グローバルリーディング事業の積極的な展開」では、2013年4月にケミカル事業で省燃費型高性能タイヤ向け合成ゴム(S-SBR)工場がシンガポールで竣工し、商業運転を開始しました。現在増設ラインも建設中です。また、エレクトロニクス事業でリチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」の増設ラインが2013年7月に宮崎県日向市で、感光性ドライフィルム「サンフォート™」の工場も同年10月に中国・常熟市で竣工しました。さらに繊維事業では宮崎県延岡市で再生セルロース繊維「ベンベルグ™」の増設ラインが竣工し、2014年6月より商業運転を開始しています。

「新しい社会価値の創出」では、「環境・エネルギー」分野で、米国クリスタル IS社と共同で開発を進めてきたUV-

LED(紫外発光ダイオード)事業の初期生産ラインを静岡県富士市に建設中で、2015年の製品上市を目指しており、殺菌用途を中心にグローバルなマーケティング活動も実施しています。また、「住・暮らし」分野では、高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」の増設ラインが茨城県猿島郡で竣工したほか、構造性能を最大限に活かし設計自由度を高めた住宅「NEXT HEBEL HAUS™」を発売するなど、新しい住まい方を提案し続けています。さらに「ヘルスケア」分野では、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」の海外臨床試験が順調に進んでいるほか、米国ゾール・メディカルが着用型自動除細動器「LifeVest™」を中心に順調な拡大を続けています。日本では、2013年に製造販売承認も取得し、クリティカルケア事業は2014年度にのれん等の償却後の営業利益計上(黒字化)を計画しています。

また、グループ横断で収益力の向上とコストダウンを図るために2012年度下期より「SL200プロジェクト」を実行しており、2013年度は約150億円のコストダウンを達成することができました。

2013年度の主な設備投資	2013年度完工	2013年度末工事中
2013年度の 主な設備投資	<ul style="list-style-type: none"> ●ケミカル事業 <ul style="list-style-type: none"> ・S-SBR工場の新設(シンガポール) ・アセトニトリル工場の新設(韓国) ●建材事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ネオマフォーム工場の製造ライン増設(茨城県) ●エレクトロニクス事業 <ul style="list-style-type: none"> ・リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」工場の製造ライン増設(宮崎県) ・感光性ドライフィルム「サンフォート™」工場の新設(中国) ●医薬・医療事業 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬研究センター創薬棟の新設(静岡県) ・医薬生産センター名古屋医薬工場第2製剤棟の新設(愛知県) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ケミカル事業 <ul style="list-style-type: none"> ・S-SBR工場の増設(シンガポール) ・ヘキサメチレンジイソシアネート系ポリイソシアネート「デュラネット™」工場の製造ライン増設(中国) ●繊維事業 <ul style="list-style-type: none"> ・再生セルロース繊維「ベンベルグ™」工場の製造ライン増設(宮崎県)(2014年6月に商業運転開始)

■ 2014年度の見通しについてお聞かせください。

住宅事業で建築資材価格や施工費の上昇を見込むことや、医薬事業において薬価改定の影響や研究開発費等の販管費の増加を見込むものの、ケミカル事業において、製品市況の改善や、新工場の本格稼働による販売量の増加を見込むことなどから、2014年度は過去最高を更新する売上高2兆160億円、営業利益1,500億円を目指します。

■ ガバナンス体制の強化について教えてください。

2014年度よりガバナンス体制強化のため持株会社に「ケミカル・繊維」「住宅・建材」「エレクトロニクス」「ヘルスケア」の4領域それぞれの担当役員を設置し、領域ごとに的確な資源配分を行うなど迅速な事業判断を可能にする一方、領域間の融合を深め一体感のある運営ができる体制としました。さらに、2011年度より始めた「これからプロジェクト」を「グループ融合事業化プロジェクト」に発展させるとともに、グループの中長期的なテーマについては、研究・開発本部内に設置した組織で推進していくなど、研究開発体制の再編も行いました。

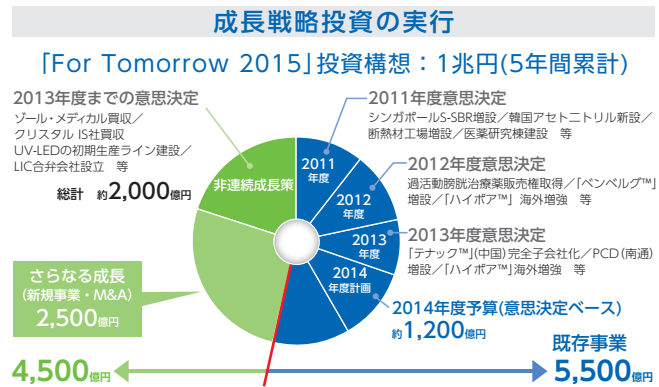
■ 成長戦略投資の考え方についてお聞かせください。

中期経営計画では5年間で1兆円の長期投資を計画し、これまでに既存事業への設備投資や米国ゾール・メディカルの買収などのM&A・新規事業に積極的に投資してきました。2014年度以降もその方針は変わりません。今後のさらなる成長に向けた投資については、2015年度までに2,500億円を計画しており、M&Aを中心に実行していきたいと考えています。

■ 株主への還元方針について教えてください。

当社は、連結業績をベースにして、適切な内部留保を切りつつ、継続的な収益拡大による継続的な増配を目指すことを基本方針としています。内部留保資金は、成長戦略の中心と定めている「環境・エネルギー」「住・くらし」「ヘルスケア」の3分野において、M&Aを含む戦略的な投資や、新規事業創出のための研究開発費など、将来の収益拡大の実現に必要な資金として充当していきます。

当期の配当につきましては、上記の方針や特別利益の計上等を勘案し、3円増配の年間17円とさせていただきます。来期につきましても、業績予想を踏まえ1株当たり17円を予定しています。今後も配当性向3割を目安に、中期経営計画「For Tomorrow 2015」の実現を通じて企業価値の増大を図り、株主のみなさまへ積極的な還元を行ってまいります。



■ 決算ハイライト (セグメント別)



ケミカル 売上高 **7,916億円** (前期比15.6%増) 営業利益 **389億円** (前期比69.6%増)

【旭化成ケミカルズ株式会社】 社長：小林 友二 資本金：30億円
主要製品 石化・モノマー系(アクリロニトリル、スチレンモノマー、アジピン酸など)、ポリマー系(エンジニアリング樹脂、ポリエチレン、合成ゴムなど)、高付加価値系(医薬・食品用添加剤「セオラス」™、中空糸ろ過膜「マイクロザ」™、イオン交換膜「サランラップ」™ など)



繊維 売上高 **1,209億円** (前期比10.3%増) 営業利益 **86億円** (前期比112.5%増)

【旭化成せんい株式会社】 社長：高梨 利雄 資本金：30億円
主要製品 再生セルロース繊維「ベンベルグ」™、ポリウレタン弾性繊維「ロイカ」™、スパンボンド不織布、ナイロン66繊維「レオナ」™ など



住宅 売上高 **5,344億円** (前期比9.9%増) 営業利益 **630億円** (前期比16.1%増)

【旭化成ホームズ株式会社】 社長：池田 英輔 資本金：32億5千万円
主要製品・事業 戸建住宅「ヘーベルハウス」™、集合住宅「ヘーベルメゾン」™、分譲マンション「アトラス」™、「ヘーベルメゾン」™の賃貸管理、リフォーム事業、住宅ローン事業など



建材 売上高 **550億円** (前期比6.8%増) 営業利益 **55億円** (前期比39.0%増)

【旭化成建材株式会社】 社長：前田 富弘 資本金：30億円
主要製品 軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル」™、高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ」™フォーム・「ジューピー」™、パイル、鉄骨構造用資材など



エレクトロニクス 売上高 **1,450億円** (前期比10.6%増) 営業利益 **142億円** (前期比404.1%増)

【旭化成エレクトロニクス株式会社】 社長：城戸 信介 資本金：30億円
主要製品 ミクスドシグナルLSI、ホール素子など
【旭化成イーマテリアルズ株式会社】 社長：高山 茂樹 資本金：30億円
主要製品 リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイボア」™、感光性ドライフィルム「サンフォート」™、フォトマスク防塵保護膜ペリクルなど



医薬・医療 売上高 **1,525億円** (前期比14.3%増) 営業利益 **303億円** (前期比90.0%増)

【旭化成ファーマ株式会社】 社長：堀 一良 資本金：30億円
主要製品 医療用医薬品(骨粗鬆症治療剤「テリボン」™、血液凝固阻防止剤「リコモジュリン」™)、排尿障害改善剤「フリバス」™)など
【旭化成メディカル株式会社】 社長：柴田 豊 資本金：30億円
主要製品 ポリスルホン膜人工腎臓「APS」™、アフレスシス(血液浄化療法)関連機器、ウイルス除去フィルター「プラノバ」™ など



クリティカルケア 売上高 **798億円** (前期比53.2%増) 営業損失 **△35億円** (前期比1億円の改善)

【ZOLL Medical Corporation】 CEO：Richard A. Packer 資本金：1,723百万ドル(資本剰余金含む)
主要製品 医療機関向け除細動器、着用型自動除細動器「LifeVest」™、自動体外式除細動器「ZOLL AED Plus」™、体温管理システム「サーモガードシステム」™ など

TOPICS

▶持株会社 ▶ケミカル ▶繊維 ▶住宅 ▶建材 ▶エレクトロニクス ▶医薬・医療 ▶クリティカルケア

▶ヘキサメチレンジイソシアネート系ポリイソシアネート「デュラネート™」の中国における生産設備の増設を決定



▶「邸宅」スペックを装備した「ヘーベルハウス™ FREX RESIDENCE」をラインナップ

▶中国におけるポリアセタールの製造・販売合弁会社「杜邦・旭化成ポリアセタール（張家港）有限公司」のデュボン社持分全株式（50%）の譲り受けを決定

▶The Global Energy Prize を受賞

ロシア版ノーベル賞と言われ、エネルギー分野で最も権威ある賞の1つThe Global Energy Prize を吉野彰旭化成フェローが受賞。リチウムイオン二次電池の開発とそれによるエネルギー問題解決への貢献が評価されました。（右が吉野）



▶シンガポールで省燃費型高性能タイヤ向け合成ゴム（S-SBR）の新工場竣工式を開催

独自の技術開発により、タイヤの省燃費性とウェットグリップを高次元でバランスさせながら、耐磨耗性や操縦安定性も同時に改良することを可能にする省燃費型高性能タイヤ向けS-SBR新工場の竣工式をシンガポールで行いました。



▶リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」の製造設備が商業運転開始

▶着用型自動除細動器「LifeVest™」の国内製造販売承認を取得

心臓突然死につながる可能性のある不整脈が起こった際に自動で除細動治療を行う、着用型の自動除細動器「LifeVest™」の国内製造販売承認を取得しました。



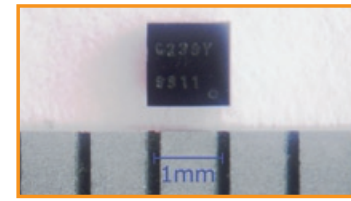
▶中国における高性能ポリウレタン樹脂原料ポリカーボネートジオール「デュラノール™」生産設備の新設を決定

▶ファイザー（株）とトロンボモジュリン製剤「リコモジュリン® 点滴静注用12800」の日本におけるコ・プロモーション契約を締結

▶卓上水耕栽培キット「VEGEUNI™（ベジユニ）」を発売

▶携帯機器向け3軸電子コンパス製品「AK09911C」を発売

世界最小となるパッケージサイズで、3軸磁気センサをワンチップで構成し、広い磁気測定範囲を踏襲する3軸電子コンパス製品「AK09911C」を発売しました。



▶旭陽産業（株）、新東京旭（株）を合併し、旭化成インターテキストスタイルズ（株）を設立

▶医薬研究センター創薬棟が竣工

最新の実験機器や実験設備を整えた創薬棟が静岡県大仁地区に竣工しました。



▶第13回「旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞」を開催

▶中国における感光性ドライフィルム「サンフォート™」の新工場が商業運転開始

[事業活動]

2013

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

[社会貢献活動]

▶中国・内モンゴルの砂漠に、植樹を行いました

2012年度に続き、中国・内モンゴルのホルチン砂漠で、砂漠化進行阻止と緑化のために、5,130本の植樹を行いました。



▶富士社社で「ホテルまつり」を開催

静岡県の富士社社内にある「あさひ・いのちの森」で、「第6回旭化成ホテルまつり」を開催しました。森の中のピオトープで育ったホテルの飛翔を、3,000人を超える市民のみなさまに楽しんでいただきました。

▶「旭化成水環境基金光彩生態林」の設置を決定

中国における青少年向けの水環境の啓蒙活動と水環境関連研究支援等を目的に、2009年に中国光彩事業基金会のもとに設立した「旭化成水環境基金」の一環として、渇水・干ばつによる深刻な影響を受けている中国・甘粛省で植樹活動を行うことを決定しました。



▶宮崎県高千穂町で植樹活動を行いました

宮崎県高千穂町にある「あさひの森・高千穂」で植樹活動を行いました。スギ・ヒノキなどの人工林を、広葉樹を主体とした本来の自然林に戻す活動で、2,500本を植樹しました。



▶教員の民間企業研修に協力

一般財団法人経済広報センターが主催する「教員の民間企業研修」に協力し、東京都私学財団より派遣された教職員の方々を受け入れ、2日間の日程で、東京本社および富士社社にて、講義、工場・研究所見学などの研修を行いました。



▶「夏休み子ども化学実験ショー2013」に出展

日本化学工業協会などが主催する「夏休み子ども化学実験ショー2013」に出展。実験ショー開催期間の2日間で、当社ブースでは10回の授業を実施し、200名を超えるお子さんがプラスチックの不思議を学びました。



▶川崎製造所にて、カナダの高校生の工場見学を受け入れました

旭化成ケミカルズ川崎製造所にてカナダの高校生など25名の工場見学を受け入れ、日本の先端技術の優位性や、日本製品の素晴らしさを理解していただきました。



▶「びわ湖環境ビジネスメッセ2013」に出展

滋賀県長浜市で開催された「びわ湖環境ビジネスメッセ2013」に出展しました。「滋賀県の水の保全に貢献する旭化成グループの環境ソリューション」というテーマのもと、関連する製品等を展示しました。



TOPICS

▶持株会社 ▶ケミカル ▶繊維 ▶住宅 ▶建材 ▶エレクトロニクス ▶医薬・医療 ▶クリティカルケア

▶救急隊・医療機関向け除細動器 [X Series™]の国内製造販売承認を取得

救急現場や搬送中の車内、医療機関などのあらゆる場面に対応する携帯型モニタリング機能付除細動器[X Series™]の国内製造販売承認を取得しました。



▶米国において科学技術の振興・教育を目的とした独立法人「The ZOLL Foundation (ゾール基金)」の設立を発表

▶[NEXT HEBEL HAUS™]シリーズを発売

鉄骨軸組ハイパーフレーム構法の優れた構造性能を最大限に活かした「NEXT HEBEL HAUS™(ネクストヘーベルハウス)」シリーズを発売しました。

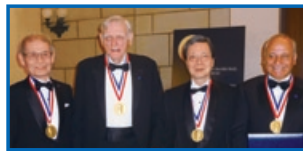


▶医薬生産センター名古屋 医薬工場第2製剤棟が竣工

骨粗鬆症治療剤「テリボン™」および血液凝固阻剤「リコモジュリン™」の製造を行う名古屋医薬工場第2製剤棟が竣工しました。



▶吉野彰旭化成フェローが全米技術アカデミーより Charles Stark Draper 賞を受賞(一番左が吉野)



▶岡山県・水島地区エチレンセンター集約に関する基本合意および国内石油化学事業の基盤強化について発表

▶ネオマフォーム工場 増設ライン竣工式を開催

茨城県猿島郡に高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」工場の製造ライン増設の竣工式を行いました。



▶韓国でアセトニトリル新プラント 竣工式を開催

医薬品原体、中間体の製造工程で溶媒として使用されている他、分析用試薬や農業などにも使用されるアセトニトリルの韓国での新プラントが完工し、竣工式を開催しました。



- ▶高感度InSb(インジウムアンチモン)薄膜ホール素子が第7回電気技術顕彰「でんきの礎」に選定
- ▶ウイルス除去フィルター「プラノバ™」が第60回大河内記念技術賞受賞
- ▶[MMAモノマー製造用 金-酸化ニッケル触媒の開発と実用化]に関して第62回日本化学会化学技術賞を受賞

▶第14回「旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞」を開催



[事業活動]

2013

11月

[社会貢献活動]

▶朝日新聞社の環境教育プロジェクト「地球教室」にて出前授業などを行いました

朝日新聞社が小学生を対象に行う環境教育プロジェクト「地球教室」に協賛し、東京と千葉の小学校で出前授業を行いました。旭化成ホームズの研究員2名が先生役となり、「熟と遊ぼう!」と題して、エコな住まい方を考える授業を行いました。



▶「青少年のための科学の祭典」に出展

日本科学技術振興財団が全国で実施する「青少年のための科学の祭典」の岡山大会に協賛、毎年実験ブースを出展しています。2013年度は、「芳香剤をつくろう!」というテーマで、小・中・高校生に、化学のおもしろさを伝える実験を行いました。



▶「エコプロダクツ 2013」に環境対応製品・技術を出展

「環境・エネルギー」「住・くらし」の2つのテーマに関する環境対応製品・技術をPRしました。



▶読売新聞社主催の「日本学生科学賞」で「旭化成賞」を選定しました



▶自社敷地内に津波避難タワーを建設しました

宮崎県延岡市と日向市に、2つの津波避難タワーを設置しました。南海トラフ巨大地震の際の津波発生時に、従業員や工場周辺の住民の方の避難受け入れを行い、地域防災に貢献します。



▶福島県いわき市での出前授業が3年目を迎えました

被災地支援の一環として、宮崎県延岡市と兄弟都市である福島県いわき市の小・中学生約800名に理科のおもしろさを伝える実験型出前授業を行いました。



▶旭化成陸上部が、小学生向け陸上教室を開催



▶「科学の甲子園」に協賛し、「旭化成賞」を授与しました

高校生を対象とした科学イベント「科学の甲子園」(科学技術振興機構主催)に協賛し、企業賞として「旭化成賞」を授与しました。



POINT

1	現金および預金が420億円増加したほか、たな卸資産が189億円、受取手形及び売掛金が105億円増加したことなどから、前期比で709億円増加し、8,904億円となりました。
2	有形固定資産が190億円、保有株式の時価が上昇したことなどにより投資有価証券が135億円増加したことなどから、前期比で440億円増加し、1兆247億円となりました。
3	流動負債は、未払法人税等が345億円増加したものの、コマーシャル・ペーパーが600億円、短期借入金金が94億円減少したことなどから、前期比で261億円減少し、5,768億円となりました。 固定負債は、退職給付引当金が1,078億円減少したものの、退職給付に係る負債が1,435億円増加したことなどから、前期比397億円増加し、4,125億円となりました。 有利子負債は、前期比776億円減少し、3,039億円となりました。
4	退職給付に係る調整累計額△251億円の計上や配当の支払196億円の減少などがあったものの、当期純利益を1,013億円計上したことや、為替換算調整勘定が303億円、その他有価証券評価差額金が130億円それぞれ増加したことなどから、当期末の純資産は前期末の8,245億円から1,013億円増加し、9,258億円となりました。 その結果、1株当たり純資産は前期比72円09銭増加し653円15銭となり、自己資本比率は前期末の45.1%から47.7%となりました。D/Eレシオは、前期末から0.14ポイント改善し、0.33となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:億円

科目	前期 2013年3月31日現在	当期 2014年3月31日現在
資産の部		
1 流動資産	8,195	8,904
2 固定資産	9,807	10,247
有形固定資産	4,616	4,805
無形固定資産	2,554	2,584
投資その他の資産	2,637	2,857
資産合計	18,002	19,151
負債の部		
流動負債	6,029	5,768
固定負債	3,729	4,125
3 負債合計	9,757	9,893
純資産の部		
株主資本	7,339	8,156
資本金	1,034	1,034
資本剰余金	794	794
利益剰余金	5,536	6,354
自己株式	△ 24	△ 26
その他の包括利益累計額	782	971
少数株主持分	124	131
4 純資産合計	8,245	9,258
負債純資産合計	18,002	19,151

連結損益計算書(要旨)

単位:億円

科目	前期 2012年4月1日～ 2013年3月31日	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
売上高	16,666	18,978
売上原価	12,395	13,857
売上総利益	4,272	5,121
販売費及び一般管理費	3,352	3,687
営業利益	920	1,433
営業外収益	138	106
営業外費用	107	111
経常利益	951	1,429
特別利益	3	555
特別損失	132	345
税金等調整前当期純利益	823	1,639
法人税、住民税及び事業税	279	682
法人税等調整額	5	△ 64
少数株主損益調整前当期純利益	539	1,021
少数株主損益	損 2	損 8
当期純利益	537	1,013

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:億円

科目	前期 2012年4月1日～ 2013年3月31日	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,260	2,442
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,785	△ 1,038
財務活動による キャッシュ・フロー	1,662	△ 1,051
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 9	33
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	129	386
現金及び現金同等物の 期首残高	964	1,040
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	1	5
関係会社の報告期間変更に伴う現金 及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 53	-
現金及び現金同等物の 期末残高	1,040	1,431

連結株主資本等変動計算書(要旨) (2013年4月1日～2014年3月31日)

単位:億円

	株 主 資 本					その他の包括 利益累計額合計	少数株主 持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2013年4月1日残高	1,034	794	5,536	△ 24	7,339	782	124	8,245
当期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 196		△ 196			△ 196
当期純利益			1,013		1,013			1,013
自己株式の取得				△ 2	△ 2			△ 2
自己株式の処分		0		0	0			0
連結範囲の変動			13		13			13
持分法の適用範囲の変動			△ 12		△ 12			△ 12
株主資本以外の項目の当期間中の変動額(純額)						189	7	196
当期間中の変動額合計	-	0	818	△ 2	817	189	7	1,013
2014年3月31日残高	1,034	794	6,354	△ 26	8,156	971	131	9,258

会社概要

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	ケミカル・繊維、住宅・建材、エレクトロニクス、ヘルスケア等の事業を行う会社の株式保有およびその事業活動の管理等
東京本社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング 電話 (03) 3296-3000
大阪本社 (本店)	〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル 電話 (06) 7636-3111
連結対象子会社	131社
持分法適用会社	40社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp

役員 (2014年6月27日現在)

取締役会長	伊藤 一郎	常勤監査役	川崎 俊之
代表取締役社長兼社長執行役員	浅野 敏雄	常勤監査役	永原 肇
代表取締役兼副社長執行役員	平居 正仁	社外監査役	手塚 一男
代表取締役兼専務執行役員	小林 友二	社外監査役	小林 公司
代表取締役兼専務執行役員	小堀 秀毅	社外監査役	真壁 昭夫
取締役兼常務執行役員	小林 宏史		
社外取締役	市野 紀生		
社外取締役	白石 真澄		
社外取締役	安達 健祐		

株式の状況

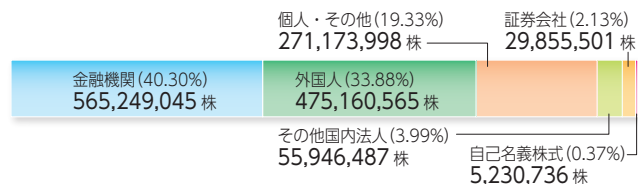
発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	97,906 名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	73,000	5.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	70,189	5.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	49,012	3.51
旭化成グループ従業員持株会	43,591	3.12
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
株式会社みずほ銀行	31,200	2.23
東京海上日動火災保険株式会社	20,215	1.45
住友生命保険相互会社	19,517	1.40
全国共済農業協同組合連合会	19,200	1.37
明治安田生命保険相互会社	18,416	1.32

(注) 持株比率については、自己株式を除いて算出しています。

所有者別株式分布状況

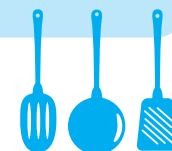


所有株数別株式分布状況



CLOSE UP ～みずみずしい毎日を、ずっと。～

毎日楽しく新鮮に、新「サランラップ®」リニューアル発売! 2014年6月1日



「サランラップ®」は20世紀の初頭、アメリカで誕生しました。フィルム製造メーカー職員の妻サラとその友人アンが、それまでチーズ包装に使われていたフィルムでレタスを包んでピクニックに持って行った際、レタスがみずみずしさを保っていたことに気づき、食品包装用フィルムとして発売するきっかけになりました。2人の名前をとって「サラン(サラ+アン)ラップ」と名付けられたと言われています。私たちは、「いつの時代も最良の製品を提供していきたい」との想いからパッケージの改良を続けています。今回のリニューアルでは、キッチンに置いてあるだけで気持ちが華やかような、鮮やかなパッケージデザインにいたしました。「料理作りひとつにも、自分の喜びや輝きを大切にしたい」。そんなご要望に応じて、「サランラップ®」が変わりました。使う人の毎日が心まで新鮮で輝くものであって欲しいという願いを込めて、新しいスローガン「みずみずしい毎日を、ずっと。」と共に、新しい「サランラップ®」が始まります。

POINT 1 キッチンに置きたくなる!

従来品で高い評価を得ていた「高級感がある」「信頼感がある」といった印象は残しつつ、新たに「斬新な」「元気が出る」「個性のある」印象を加え、イメージアップを図りました。

POINT 2 手に取りたくなる!

店頭で目立つ、手に取りたくなるデザインを採用。それぞれのベースカラーに鮮やかな色を使用し、識別性を高めました。遠くから見ても商品の存在がパッとわかります。

POINT 3 機能も進化!

- ◆ 快適に切れる特殊形状刃
スムーズにフィルムが切れる刃を採用。途中で破れにくく、ストレスなくお使いいただけます。
- ◆ はがしやすい開封ジッパー
ジッパーをスムーズにはがせるようミシン目の位置と間隔を改良。気持ちよく使い始められます。
- ◆ 握りやすくエンボス加工した箱
左右どちらの手で握ってもフィットするように、底面をエンボス加工しました。



底面エンボス加工

株式メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬開催
基準日 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
公告の方法 電子公告
<http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html>

株式に関するお手続きについて

各お手続きのお問い合わせ先は以下のとおりとなっております。

お手続きの内容	証券会社の口座をご利用の株式についてのお問い合わせ先	特別口座※1)に記録された株式についてのお問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none">住所、姓名などのご変更配当金の受領方法のご変更単元未満株式の買取、買増請求	お取引証券会社	特別口座の口座管理機関 〔三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)*〕
<ul style="list-style-type: none">特別口座から証券口座への振替請求		
<ul style="list-style-type: none">未払配当金の支払請求※2)その他のお問い合わせ	株主名簿管理人 〔三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)*〕	

※1) 株券電子化以前に株式会社証券保管振替機構に預託されていなかった株式は、法令に従い、当社が、名義人名で三井住友信託銀行株式会社に開設した「特別口座」に記録されています。「特別口座」に記録された株式のご売却には、証券会社の口座への振替手続きが必要です。

※2) 配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

*【三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)】

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先 ☎0120-782-031 (平日9:00~17:00)
ホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【配当金受領方法について】

お受け取りには、下記の4つの方法がございます。安全、確実にお受け取りいただくために、①～③の口座振込の利用をお奨めいたします。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)

- ① 登録配当金受領口座方式**
全てのご所有銘柄の配当金が、ご指定いただいた一つの金融機関預金口座に振込みとなります。
- ② 株式数比例配分方式**
ご利用の各証券口座に振込みとなります。
(注. 当方式を採用している証券口座のみをご利用の株主様に限ります。)
- ③ 個別銘柄指定方式**
ご所有の銘柄ごとにご指定いただいた金融機関預金口座への振込みとなります。
- ④ 配当金領収証方式**
ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で現金をお受け取りいただけます。

【単元未満株式(1~999株)の買取・買増について】

ご所有の株式の買取りの請求、または買増しの請求をしていただくことができます。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)
なお、単元未満株式が特別口座で管理されている場合、手数料は無料です。(証券会社で管理されている場合の手数料は、お取引証券会社にお問い合わせください。)

- 買取請求**
ご所有の単元未満株式を、市場価格で買取る請求をしていただく制度です。
(⇒ご所有の単元未満株式のご売却となります。)
- 買増請求**
ご所有の単元未満株式が単元株(1,000株)になるために必要な株式数を、市場価格で買増す請求をしていただく制度です。
(⇒買増し後は、単元株式をご所有いただくこととなります。)

旭化成株式会社

〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル
<http://www.asahi-kasei.co.jp>

